



校訓 以信為本 (信を以って本と為す)

目指す姿

【学校像】

東三河唯一のビジネス教育の専門高校として、地域から学び、地域と協働し、地域の課題に目を向け、創造的かつビジネスの専門的知識を身に付けた地域に貢献できる人材を育成する生徒と地域から愛される学校

【教育理念】

校訓の精神に則り、国家及び社会の有為な形成者として、心身ともに健康で、知性にあふれ、時代の進展に対応できる教養と高い技術を備えた、以下のような職業人の育成を図る

- ・自主性に富み、信用・責任を重んずる人
- ・協調性に富み、礼節・勤労を重んずる人
- ・創造性に富み、真摯・実行を重んずる人

【教職員像】

- ◎情熱あふれ、生徒一人ひとりの特性に合った支援ができる
- ◎研修に励み、資質の向上、指導方法の工夫と改善に努める
- ◎モラルを高め、人権感覚を磨き職務に誇りを持つ

↑ スクール・ポリシー

1 目指す生徒像 (育成を目指す資質・能力に関する方針)

- (1) 商業高校での学びを自らのキャリアや地域社会で活かすことができる人
- (2) 校訓「以信為本」の精神を尊重し、ビジネス教育を通して、豊かな人間性を培い、他者と協働できる人
- (3) 自ら主体的に学び行動し、社会的・職業的に自立できるビジネススキルを身に付けた人
- (4) 地域と連携した様々な探究活動を通して、多様性を理解受容できる人

2 本校における学び (教育課程の編成及び実施に関する方針)

- (1) 多様な分野と連携したビジネス実践を通じ、一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む態度や行動を醸成する学びの実現
- (2) 地域資源を教育課程に積極的に取り入れ、疑問を持ち、考え抜くことから、生徒のキャリア形成を促す指導の重視
- (3) 持続可能な地域づくりに貢献でき、地域の多様な人々とともに、目標に向けて協働する活動の実践
- (4) 多様化した生徒一人ひとりの特性や能力を最大限に伸ばさせ、自己実現が図れるよう、選択科目やコースを設置し、少人数授業の利点を生かした個別最適化した教育の充実

3 入学を期待する生徒像 (入学者の受入れに関する方針)

- (1) 信用・礼節・真摯実行を重んじ、本校の教育課程を履修する学力を有する人
- (2) チャレンジ精神旺盛でビジネスを専門的に学び、自分に向いている職業を知りたい人
- (3) 東三河の地域や経済に興味・関心があり、地域に貢献する意欲のある人
- (4) 自らのキャリアをデザインするため多様なビジネス分野と協働でき、自ら学ぶことができる人

学科目標 (◎令和4年度の改善への取組)

AI、IoTと共存しながら地域社会のために自ら課題を発見し、課題解決のために主体的かつ協働的に取り組むことができる人材の育成

【総合ビジネス科】 ⇒ 様々なビジネスシーンに対応できるビジネスリーダーの育成

- ・豊かな人間性を身に付け、職場で愛される人材
- ・ビジネスシーンで他者と協働して課題を発見し、解決できる人材
- ・地域のビジネスと将来の展望が語れる人材

【国際ビジネス科】 ⇒ グローバルビジネスで活躍できる人材の育成

- ・地球規模で経済を捉える知識と教養を身に付けた人材
- ・外国語を活用し、積極的にコミュニケーションを図ることができる人材
- ・異文化を理解し、論理的思考力をもってグローバルビジネスを勝ち抜くことができる人材

【経理科】 ⇒ 簿記会計の役割を理解し、その能力を活用できる人材の育成

- ・会計分野の知識について自信をもつことができる人材
- ・簿記会計の役割を理解し、職業人としての倫理観をもつ人材

【情報処理科】 ⇒ 情報マネジメント能力をビジネスで活用できる人材の育成

- ・ビジネス情報分野の知識を活かし、ITを利活用する者のリーダーとなれる人材
- ・情報に対する認識力・分析力・評価能力・判断力をもち合わせ、会社の意思決定に携われる人材

◎ 地域資源を科目に取り入れ、多様な分野と連携した実践的なビジネス教育を推進する。
◎ ICT環境(プレゼンテーションルーム・高性能でルーム・一人一台タブレット等)の長所を活かした授業改善に取り組む。
◎ 実社会で必要とされる、進路選択に活かせる高度な資格取得への取組を支援する。



教科目標 (令和4年度の改善への取組)

- [国語科]** ⇒ 基本的な語彙を身に付け、その基礎を土台にして論理的文章を読み、書き、話すことができる人材の育成
 - ① 新カリキュラムが本格実施されるため、授業中にパフォーマンス課題に取り組む時間を設けると共に、内容についても議論を重ね、生徒の力が伸ばされるような活動をしていく。
 - ② 学んだ言葉について、意味や漢字の書き方、読み方を見て終わりにするのではなく、論理的文章を作成する時に「使える」ようにしていく。
 - ③ 語句を調べた後に例文を作成させる等、新しく得た知識を積極的に用いるよう促し語彙力の向上を図る。また、文章を作成した際他人と文章を比較させ、正しい文章表現を意識させる。
- [数学科]** ⇒ 日常生活や社会の事象などを数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決することができる人材の育成
 - ① 計算力の育成は日常生活だけでなく商業科目にも生きる。グラフや図形、集合の考え方は社会の事象と結びつけられる範囲も多く、より具体的に事象や電子教材等で見やすい授業を心掛ける。
 - ② 生徒が授業での問題と日常生活での事柄を切り離して考えてしまうことが多く、扱う問題やテーマ、提示の仕方をさらに工夫する。実生活において数学が役に立っていることを実感させる。
 - ③ 日常生活や商業分野に関連したの問題を取り扱い、分析力や問題解決能力を身に付けさせるため、タブレットを利用した小テストを常に実施し、生徒の理解度を確認しながら授業を行う。
- [地歴公民科]** ⇒ 社会の様々な出来事や事象について歴史的・地理的な視点から多角的に考察し、人間としての在り方・生き方を主体的に考えることのできる人材の育成
 - ① 主体的に考える時間の設定がより求められた科目のため、手段を様々講じていく。
 - ② 1年次の地理で学んだ地理的な視点を引き継ぐため、関連性を意識した授業を展開する。自ら整理する時間を確実に確保することで3年生に向け、主体的な姿勢を養い続ける。
 - ③ 在学中に成人を迎える初めての学年として、主権者としての自覚を深めていく。1人の大人として必要な考えについてももしっかりと触れていく。
- [理科]** ⇒ 日常生活で起きる事物・現象を、理科の見方・考え方を働かせ、科学的に探究することのできる人材の育成
 - ② 身近な現象を中心に扱うという共通認識を持ち、細部に入り込みすぎないよう科内で情報共有する。実験、実習、探求活動の機会をより多く設ける。
 - ③ 科目を超え、さらには教科をこえて関わりのある部分を積極的に授業内で扱う。学習を進めるなかで抱いた、日常生活の中での疑問点を大切にし、探求活動につなげる。
- [英語科]** ⇒ 聞く・読む・話す・書くことの言語活動を通して、英語でコミュニケーションを図る資質・能力の育成
 - ① コロナ禍を考慮しつつ、4技能5領域を伸ばすためにICTを活用しながら言語活動を取り入れ、生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。
 - ② 感染症予防を考慮し、タブレット等を活用することで可能な限りの言語活動を行うことで、生徒の理解を促進し、コミュニケーション能力の育成を図る。
 - ③ コロナ禍においても安全に活動に取り組むことができるよう、タブレット等を適切に使用し、4つの言語活動を偏りなく取り入れ、生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。
- [保健体育科]** ⇒ 合理的・計画的な課題解決に向けた学習過程を通じて、豊かなスポーツライフを主体的・協働的に継続できる人材の育成
 - ① ICT機器を活用し自己の能力を客観的に捉える機会を増やし、個人のレベルアップに向けた主体的な取組ができることともに、運動の楽しさを見出すことができる生徒の育成を目指す。
 - ② グループ種や話し合いによる課題解決の場を多数設けることで、集団のためでの自己の役割を見出し、集団としてのレベルアップに向け、主体的に取り組む生徒の育成を目指す。
 - ③ 主体的な運動の取り組みを促し、自己に合ったスポーツとのかかわり方を模索するとともに、生涯を通じたスポーツライフスタイルを確立するための資質・能力を育成する。
- [芸術科]** ⇒ 多様な観点から芸術に対して主体的にかかわりを持ち、感性を高め新しい価値観を見出そうとする人材の育成
 - ① 表現と鑑賞において、見る、触れる、感じる、気付く、考えるといった諸活動とおとして、自分だけの表現をより自由に探すことのできる指導法を研究する。
 - ③ 表現と鑑賞とおとして、広い視点から芸術を捉えることができるよう、教科横断的な指導法を研究する。
- [家庭科]** ⇒ 生活者消費者としての視点と問題意識を身近なビジネスチャンスにつなげ、18歳成年として地域社会への貢献に意欲的な社会人の育成
 - ① 知識の定着と思考力を伸ばすとともに、身の回りのものや生活環境を改善し、問題解決を図る技術と意欲・態度を育てる。
 - ③ 選択科目「子どもの発達と保育」の選択者には、1・2年で得た知識や能力を活かし、地域の子どもの生活や遊びの文化に貢献する力を伸ばしていく。

令和4年度の重点目標 『クリティカル・シンキングの育成』

～なぜ何のためにするのか。何が課題でどう解決すればよいか。自分ができることは何か。～

